



令和7年(2025) 2月7日

54

かんむり

冠稲荷神社(群馬県太田市) & バレンタインチョコ

2024年暮れ、男声合唱団コール・グランツ創立35周年記念コンサートを聴きに埼玉県久喜市栗橋文化会館に行った際、JR栗橋駅前に「静御前ゆかりの地」と書かれていたので、そういえば、以前源義経ゆかりの場所に行ったことを思い出しました。静御前というと ドラえもんに登場するしずかちゃんの本名が源しずかと知り感慨深いものがあります。

これから紹介する義経ゆかりの場所とは、群馬県太田市の^{かんむり}冠稲荷神社という大きな神社です。

<https://kanmuri.com/>

冠稲荷神社は天治二年(1125)、新田義重の父の源義国の創建と伝えられています。義経が奥州に藤原氏を訪ねる途中、見つけた稲荷神像をここの清水で洗い清め、烏帽子の中に勧進^{えぼし}してきた京都伏見稲荷の伏見大神をこの地に祀り、自らもこのご神水で沐浴したと伝えられています。また義経と金売吉次^{かねうりきちじ}が奉納したと伝えられる石の「盤」^{たらい}がありました。

- ※【勧請】
- 1 神仏の来臨や神託を祈り願うこと。また、高僧などを懇請して迎えること。
 - 2 神仏の分身・分霊を他の地に移して祭ること。

新田義貞が元弘三年(1333)、鎌倉幕府討伐の兵を挙げるにあたり、この神前で兜の中に神霊の来臨を請い戦勝を祈願したと伝えられ、この故事にちなみここが冠稲荷と呼ばれるようになったとのこと。

境内に新田義貞お手植えと伝えられるキンモクセイもありました。本殿の彫刻は素晴らしくこの彫刻がよく見える場所が設けられておりました。

太田市指定 冠稲荷神社本殿並びに聖天宮
重要文化財

●所在地 太田市大字冠稲荷一巻地
●指定年月日 昭和四七年(一九七二)九月二七日

冠稲荷神社は社伝によれば、天治二年(一一二五)に源義国(新田義重の父)がその館(新田郡尾島町岩松)の鬼門にあたる細谷に一族の守り神として創建したと伝えられる古社で、日本七福神のひとつに数えられる。

江戸時代には細谷村教王寺が別当寺となり、細谷村に領地を持つ旗本の大久保・赤井・筒井・門倉・村上氏や武州(埼玉県)間部藩主安部氏の庇護を受け興隆した。

本殿は元禄三年(一六九〇)の再建と伝えるが、現存する棟札から享保七年(一七二二)に再建された建物とみられる。間口二・七五m、奥行一・七mの三間社流れ造り正面千鳥破風向拝唐破風付きという形式の建物である。

外壁にはめこまれた彫刻は、「琴棋書画」を題材とした本殿背面の彫刻が昭和四年(一七六七)上州花輪村(群馬県多野郡東村)の彫師前原盛次郎・小倉守八等によるもの、「虎漢三文」などを題材とした側面の彫刻が文化十二年(一一八五)の武州大里郡河原明戸村(埼玉県熊谷市)の彫師飯田仙之助等によるものである。

聖天宮は境内に残る古墳上に建てられており、間口二・九m、奥行三・九mの四方入母屋造り正面唐破風付きという形式の建物である。棟札によると安政四年(一八五七)の再築で、依佐郡下沼名(依波郡境町)の宮大工棟梁跡寺音次郎(終務寺河内守藤原照房)の手になる建物である。彫刻は音次郎の子音八等による。

音八は彫技に優れ、移天井や欄間の龍などの彫刻に彫工の技の写入をいま見ることができ、近年、音八は笠間稲荷神社本殿や皇居賢所の造営にも出ている。

太田市指定 冠稲荷神社拝殿
重要文化財

●所在地 太田市大字冠稲荷一巻地
●指定年月日 平成二年(一九九〇)三月二七日

拝殿は享亨三年(一七四六)の再建と伝えるが、現存する棟札から寛政一年(一七九〇)に再建された建物とみられる。間口一〇・二m、奥行七・七mの入母屋造り正面千鳥破風向拝唐破風付きという形式の建物である。

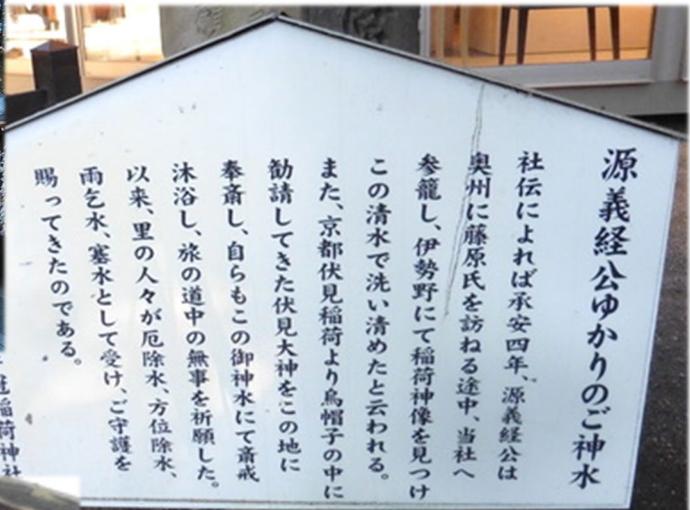
前室(紙張床)部分・礼拝所(堂敷床)部分とも天井は移天井とし、極彩色の花鳥画が描かれている。礼拝所の天井中央部分には鐘天井とし、新田郡下田島(太田市)に在位した交代寄合の旗本新田源朝臣道純(岩松漢次郎道純)による龍の要絵が描かれている。また欄間には唐子遊びの彫刻が施され、欄間上には算額・佛額・絵馬など多数の奉納額が掲げられている。

平成四年(一九九二)二月二九日

太田市教育委員会



拜殿と拜殿前のご神水



源義経公ゆかりのご神水
社伝によれば承安四年、源義経公は奥州に藤原氏を訪ねる途中、当社へ参籠し、伊勢野にて稲荷神像を見つけこの清水で洗い清めたと云われる。また、京都伏見稲荷より烏帽子の中に勧請してきた伏見大神をこの地に奉斎し、自らもこの御神水にて齋戒沐浴し、旅の道中の無事を祈願した。以来、里の人々が厄除水、方位除水、雨乞水、塞水として受け、ご守護を賜ってきたのである。



金御盃・歳徳の淵
承安四年(一七九四)源義経公と金売吉次はこの地に産敷を構えて首神社を奉く奉敬し辰巳参道入口の川のほとりに御盃を奉納しました。後にその川は「みたらい川」と言われるようになりました。現在古手の盤がその時の吉次の御盃と伝えられております。このご神水は、拝殿前の源義経公ゆかりのご神水井戸を源泉としていますが、最古の社に導かれ、宇賀舟才夫と七福神の若大な功徳をいただいております。清浄なご神水を清めれば、縁起に恵まれるとすわれ神に「厄除け水」として受けられます。どうぞ竹筒のご神水を大切に飲んでください。



源義経と金売吉次が奉納したと伝えられる「盃」のある社

(盃の説明はどれを指しているのか不明！)

新田義貞公 お手植え

金木犀

義貞公の有徳を記念する大樹である。

元弘三年（一三三三）、新田義貞公は鎌倉の北條氏を滅ぼす偉功をあげたが、参兵にさきだち当神社に参籠し、武運を祈願した。

この時、天から授かった神木とされ、古代中国では、「広宮仙」と称して尊ばれる金木犀を植栽したという。

この柱樹の下には吉兆を告げる風風に似た白い神鳥が舞うといわれる。

樹齢は六〇余年と推定される。

樹高は十五、五米、樹冠（枝の広がり）は約十六米、根元周二米の大樹である。

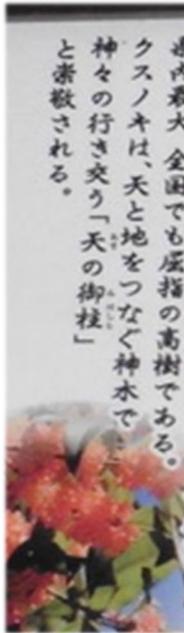
その樹高、樹形において、全国でも珍しい巨木と評される。

花時は仲秋の十月、清澄の季節に清々しい静寂の薫りを方敷町に漂わせて咲く。

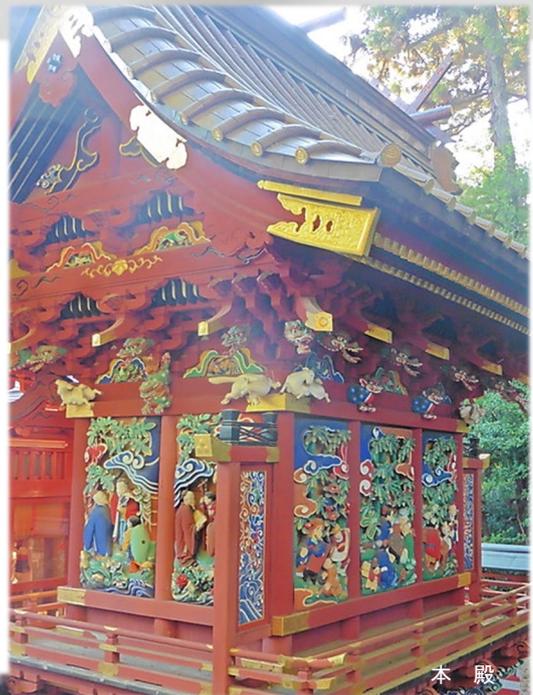
社傳に「花時は一里四方へ薫りしと旧日光例幣使の聞くところなり賞讃を羨りしことありし」とある。漢名を丹桂、花を「天上の桂花」という。

中国では、この桂花を、烏龍茶の香りづけに用いる。尚、当神社境内、嚴島神社前の株は樹齢六〇〇年と推定され、樹高二十五、八米根元周七、六米で県内最大、全国でも屈指の高樹である。

クスノキは、天と地をつなぐ神木で、神々の行き交う「天の御枝」と崇敬される。



新田義貞お手植えのキンモクセイ（幹の周りはお守り売り場）



本殿



中国の浄土教の開祖である慧遠法師は江西省廬山に隠棲しており来客を送る際、精舎の下の虎溪という谷川のところで足をとめ、そこを渡らない戒律を守っていました。ところが詩人の陶淵明と道士の陸修静が来訪した話をしていた際、興が乗じて虎溪を越えてしまいました。虎の吠える声を聞いてそれに気づき、三人で大笑をしたという「廬山記」の故事です。

冠稲荷本殿
西壁面彫刻
虎溪三笑

冠稲荷神社は、平安時代の天治二年(1125)、新田氏の始祖新田義重公の父、源義国公創建と伝えられ、伏見、豊川、信田、王子、妻恋、田沼と合わせ、日本七社のひとつといわれています。承安四年(1174)、源義経は奥州下向の折、当社が源氏ゆかりの社であることを知り、冠の中に^{かんじょう}勧請してきた京都伏見稲荷大社の御分霊を鎮祭しました。また、時を経て、新田義貞公は元弘三年(1333)鎌倉幕府討伐の兵を挙げるにあたり、この神社前にて兜の中に神霊の来臨を請い戦勝を祈願されたと伝えられています。この故事にちなみ、いつしか冠稲荷大明神と人々から呼ばれるようになりました。



毎年バレンタインシーズンになるといろいろなチョコレートがあちこちで売られるようになり、変わったチョコレートを見つけるのを楽しみにしています。

以前も宇都宮で見つけたチョコレートについて、「齋藤茂樹の北関東巡り」No.12とNo.41に掲載しました。

No.12: バレンタイン

https://rkato.sakura.ne.jp/essay/ss12_saito_shigeki_no_kitakanto_meguri.pdf

No.41: 伊勢崎市の歴史／バレンタインデー

https://rkato.sakura.ne.jp/essay/ss41_saito_shigeki_no_kitakanto_meguri.pdf

今年は群馬県伊勢崎市にある「カルディコーヒーファーム」という店でベルギー・ベルフィンの楽しいロリポップチョコレートを見つけました。美味しいことを期待しながら当分このまま取っておく予定です。

ひつじ形のチョコ (ラムパディ)



うさぎ形のチョコ (バニーピンキー)

ひよこ形のチョコ (チックサマンサ)



くま形のチョコ（ベアアルノ）
 しろくま形のチョコ（ベアハート）



くま形のチョコ
 （神奈川県(株)イワサキ製 ベアチョコ）



〔 齋藤茂樹の北関東巡り バックナンバー 〕

#1 鎌倉殿の13人	#21 第50回宇都宮市民合唱祭	#41 伊勢崎市の歴史／バレンタインデー
#2 紅葉の群馬県	#22 骨波田の藤と塙 保己一	#42 第51回宇都宮市民合唱祭
#3 栃木、埼玉の名所	#23 大室古墳群、鼻高展望花の丘	#43 古の音 スペイン黄金世紀のピウエラ歌曲
#4 栃木、群馬県庁	#24 桜とあじさい、紅葉の太平山	#44 池大雅 — 陽光の山水
#5 全国御守り特集	#25 ドン合唱団 歌い続けて65年	#45 富岡製糸場と絹産業遺跡群 田島弥平旧宅
#6 世良田東照宮・家康	#26 宇都宮市民芸術祭合唱フェス	#46 古代蓮と田んぼアート 埼玉県行田市・古代蓮の里
#7 栃木・益子の陶器	#27 第63回群馬県合唱コンクールを聴く	#47 SUBARU航空宇宙カンパニー
#8 奥の細道むすびの地	#28 お盆飾りを調べてみた	#48 秋の演奏会シーズン到来
#9 古鎌倉街道	#29 KTC混声合唱団を聴く	#49 銅山の歴史を語る日鉱記念館
#10 新田義貞・上毛かるた	#30 伊勢崎藩を守れ！天明浅間山大噴火	#50 上州神社巡拝 神玉巡り
#11 慈覚大師 円仁	#31 陶器・像形展から銀座・日本橋界限を散策	#51 床もみじ リフレクション、床に映える世界
#12 バレンタインチョコ	#32 宇都宮芳賀ライトレール線開業	#52 日清製粉「製粉ミュージアム」、田中正造記念館など
#13 梅の名所 愛知・京都	#33 第14回男声合唱フェスティバルin宇都宮	#53 2024 年末に聴いたコンサート
#14 梅の名所 栃木・群馬	#34 コーア・リヒト 第5回演奏会	
#15 早咲きの河津桜	#35 江戸城周辺散策	
#16 シアトルの花見	#36 古巣の合唱団ノース・エコとボーイング	
#17 宇都宮市民合唱祭	#37 4泊5日の日光満喫旅行	
#18 桜の名所 愛知・兵庫	#38 日光で新たな発見！	
#19 群馬の桜と上毛かるた	#39 水戸バッハコレギウムを聴く	
#20 交通の要所・館林	#40 笠間焼 益子焼 かさましこ	

[Back](#)

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る